

2015/8/24

第36回「石橋湛山賞」受賞作決定

2015年度・第36回の「石橋湛山賞」（石橋湛山記念財団主宰、東洋経済新報社協賛）受賞作は、日本国際交流センター・シニアフェローの若宮啓文氏による『戦後70年 保守のアジア観』（朝日新聞出版、2014年12月刊）に決定いたしました。全国の有識者からご推薦いただいた40篇を超える著作・論文の中から、厳正なる審査を経て選考されました。

朝日新聞社で政治記者から論説主幹、主筆などを務めた若宮氏は、自民党を中心とした保守政治家がアジアとどう向き合ってきたのかを早くから追いつけてきました。受賞作は著書の『戦後保守のアジア観』（1995年）、『和解とナショナリズム』（2006年）をベースに、全面的に書き換えた集大成版です。アジアとの和解と反発の間を揺れ動く戦後政治の姿を、数多くの現場に立ち会った豊富な経験から臨場感たっぷりに読み解き、東アジアの「波高き海」を「平和の海」にするべく、政治指導者たちにいっそうの英知を求めています。

選考委員が一致して本書を推薦したのは、急速に進むこの国の政治やメディア状況の劣化に対して警鐘を鳴らす役割を期待したからです。「思想的にかなりの幅があり、それを認め合う寛容さが売りものだった保守」の政治家の一人である石橋の言動についてもよくフォローし、その役割を高く評価しています。この意味からも、本書は「石橋湛山賞」にふさわしいものとされました。

授賞式は10月23日（金）、東洋経済ビルで行われます。

若宮啓文 著『戦後70年 保守のアジア観』（朝日新聞出版、2014年12月刊）

若宮啓文（わかみや・よしづみ）氏 略歴

1948年生まれ。1970年に東大法学部を卒業して朝日新聞記者となり、政治部長、論説主幹、主筆などを歴任。2013年1月に退職し、（公財）日本国際交流センターのシニアフェローに。慶應義塾大学と龍谷大学で客員教授、韓国の東西大学で碩座教授、ソウル大学日本研究所で客員研究員も。この間、1981年にソウルの延世大学で韓国語を学び、2001年に米国ワシントンのブルッキングス研究所で客員研究員。著書に『闘う社説』『新聞記者』『日韓の未来をつくる』などがある。

授賞式

日時 2015年10月23日（金）午前11時～

会場 東洋経済ビル9F 経済倶楽部ホール（東京都中央区日本橋本石町1-2-1）

「石橋湛山賞」について

石橋湛山賞は、石橋湛山記念財団により、東洋経済新報社と経済倶楽部の後援の下に、1980年に創設されました。政治経済・国際関係・社会・文化などの領域で、その年度に発表された論文・著書の中から、石橋湛山の自由主義・民主主義・国際平和主義の思想の継承・発展に、最も貢献したと考えられる著作に贈られています。

政界・経済界・学界・マスコミ関係者から寄せられた推薦論文・著書をもとに、財団理事・評議員による選考委員会が授賞候補を十数点に絞ります。この中から選考委員の叶芳和（日本経済大学大学院教授、経済評論家）、田中秀征（福山大学客員教授）、増田弘（東洋英和女学院大学教授）、宮崎勇（日中経済知識交流会

顧問)、山縣裕一郎（東洋経済新報社 代表取締役社長）各氏の合議を経て、最終選考委員会の場で決定します。

<この件に関するお問い合わせ先>

103-8345 東京都中央区日本橋本石町 1-2-1

一般財団法人 石橋湛山記念財団 <http://www.ishibashi-mf.org/>

Tel : 03-3270-8070 (月・水・金曜日 10 : 00 ~ 16 : 00)

E-mail : zai.tanzanzaidan@juno.ocn.ne.jp

事務局 山田